



外国文献紹介

化学放射線療法で治療中のⅢ期非小細胞肺癌患者の治療効果予測における組織学的サブタイプ別の ^{18}F -FDG-PETのパラメーターの意義について

Kim E et al : Significance of ^{18}F -FDG PET parameters according to histologic subtype in the treatment outcome of stage III non-small-cell lung cancer undergoing definitive concurrent chemoradiotherapy. Clin Lung Cancer 20 : e9-e23, 2019

筆者らは、化学放射線療法で治療中のⅢ期非小細胞肺癌患者に対して ^{18}F -FDGによるPET-CTを実施し、SUV maxやSUV meanなどのパラメーターを求めた。扁平上皮癌（SqCC）群44例と腺癌（ADC）群44例について、これらのパラメーターの予後予測における有用性を検討した。その結果、SqCC群のSUV maxやSUV meanなどのパラメーター値は、ADC群のものよりも有意に高値を示した。また、SqCC群のパラメーターと生存率との間に関連性はみられなかったが、ADC群では、パラメーターが低値の場合には、遠隔転移を生じ、生存率が低くなる傾向がみられた。そして、PET-CTのパラメーターを用いて化学放射線療法中の非小細胞肺癌患者の治療効果予測を行う場合には、組織型が扁平上皮癌なのかあるいは腺癌なのかという点を考慮する必要があると述べている。

瀬戸一彦